

コンピテンシーを軸にした附属天王寺型 STEAM 教育開発

New Normal

～令和 6 年度のあゆみ～

附属天王寺中学校・高等学校研究部

1. 中高の研究

本校では近年、下部に示した研究主題が設けられてきた。

令和 2・3・4 年度においては中高一貫教育をテーマに掲げている。また、令和 4 年度・5 年度においてはコンピテンシーという概念に着目し、研究が進められた。ここでいうコンピテンシーはいわゆる資質・能力を指す。何を知っているかというコンテンツベースの学習やペーパーテストで測れるような学力に終始するのではなく、かつ、知識や技能を軽視するわけなく、しっかりと包括しつつ、どのような問題に、どのような場面で、どのように活かすか、というコンピテンシー・ベースの学習指導の考え方に基つき、中高一貫の縦軸で、教科学習を組み立てられた。その考え方を教科横断的に拡張したのが、令和 5 年度となる。

本年度は昨年度に引き続いた主題ではあるが、とくに New Normal という言葉を副題にあてている。これは「新しい常態」を指すものである。

これまでの実践を整理、評価すること、またそれを洗練して発信し、イベントとしての教科横断でなく、常態化させ、持続可能な教育モデルとして、発信することに注力したいという姿勢である。

そもそも、附属天王寺中高では 6 年間で一貫して、各教科の授業における「ホンモノに触れる体験」を重視しながら、特色ある専門性を活かした各教科の授業を立案し、実施することに重点を置いてきた。そうしたことから、時には従来の教科の枠には収まりきれない授業も展開されることもあり、昨今の STEAM や教科等横断といった概念に親和性がある

学校風土であった。よって、附属天王寺中高で行われてきた実践を STEAM や教科等横断の枠組みで捉え直しつつ、また同時にその可能性を押し広げながら、新しい常態化を目指すことができるのではないかという提案である。

2. 今年度の研究について

研究テーマ

第 71 回（令和 6）コンピテンシーを軸にした附属天王寺型 STEAM 教育開発 New Normal

研究テーマ設定の背景

- ・昨年度に引き続き、コンピテンシーを軸に、教科における中高連携をテーマとしたことを踏襲しつつ、そうした附属天王寺の強みを活かした STEAM 教育を定着させたい
- ・各教科および、教科等横断型授業における評価に関わって、パフォーマンス課題に関する指導と評価の研究および実践を進めたい

教育研究会実施

日 程：11/9（土）

公開授業：数学(中高)、国語(中高)、理科(中高)、音楽(中高)、英語(高)、附属天王寺型 STEAM(高①)、自由研究（探究活動）生徒ポスター発表(中)

報告協議：附属天王寺型 STEAM(高②)、附属天王寺型 STEAM(中)

講演講師：石井英真（京都大学大学院教育学研究科准教授）

令和元年度	学びの自立を目指す評価の工夫と改善～深い学びの実現とその評価～
令和 2 年度	附属天王寺型一貫教育のための ICT 機器を活用した学校運営・教育活動の摸索
令和 3 年度	附属天王寺型一貫教育 ー何から始める？連携の視点を探るー
令和 4 年度	コンピテンシーを軸にした中高一貫カリキュラム
令和 5 年度	コンピテンシーを軸にした附属天王寺型 STEAM 教育開発

研究推進日

- ・学期に1度の小中高研究部会を持つ
- ・推進日は教員情報交換や研修の場と年度当初に行事予定に設定する
- ・研修（ワークショップ）に関して本校の教員が求めている研修を実施するように意見聴取し実現化する
- ・中学校自由研究の取り組みと高等学校課題研究の取り組みにおける繋がりを構築するための検討を行う

推進日	日付	内容
推進日①	4/30	年度方針の発表・中高教員交流
推進日②	6/19	小中高研究部会（高校主催）
推進日③	7/19	各教科の1学期授業記録の交流
推進日④	8/27	最新の教育事情 講師：西岡加名恵（京都大学大学院教育学研究科 教授）
推進日⑤	9/18	教育研究会中間発表
推進日⑥	10/22	小中高研究部会（中学校主催）
推進日⑦	11/9	教育研究会
推進日⑧	2/6	小中高研究部会（小学校主催）
推進日⑨	3/21	年度総括

3. 推進日の活動記録

推進日①

実施日：4月30日（火） 場所：小講堂

1. 本年度基本方針、教育研究会について

テーマ「コンピテンシーを軸にした附属天王寺型STEAM教育開発～New Normal～」

教育研究会：国・数・理・英・音＋教科横断

【質疑応答】

Q. コンピテンシーと本校研究の経緯について

A. 令和4年度より中高連携の軸として、コンピテンシーを重要視している。ここでいうコンピテンシーは資質・能力を指す。何を知っているかというコンテンツベースの学習に終始するのではなく、そうした知識や技能を包括し、どのような問題に（どのような場面で）、どのように活かすかというコンピテンシー・ベースの学習指導の考え方にに基づき、中高一貫の縦軸で、教科学習を組み立ててきた。その考え方を横断的に拡張したのが、令和5年度である。

Q. 常態化させる手立てについて

A. 授業記録を作成し、校種・教科を超えてどの学年でどのような授業が展開されているかを可視化したい。書式については後日提案したい。推進日③では1学期の授業記録を見て協議できるような場を持ちたい。授業記録の書式やあり方については適宜検討を行いたい。

Q. 附属天王寺が伝統的に行なってきたことに親和性の高いSTEAMを援用しているが、それで「新しい」常態化と言えるか。STEAMと教科等横断の出所の違いをどうクリアするか。

A. STEAMに着手して以来、伝統的に行なってきた指導がSTEAM・教科等横断の枠組みで再考された。STEAMと教科等横断の出所は違うが、教科の枠にとらわれない指導モデルとして「附属天王寺型」のもと、授業実践の一つ一つに対して特段の区別をせずに用いられてきた現状がある。授業ではない自治会活動にまで横断の提案があったことも特筆すべきことである。そうした実践の積み重ねを個別に取り上げてSTEAMか教科等横断か、など区別して定義づけしていくことよりも、積み重った実践から帰納的に「附属天王寺型」の本質を導き出していくことを目指している。そうして得られた知見を、日常の授業にフィードバックしていくことで附属天王寺にとってのNew Normalを目指したい。またさらに、社会がNew Normalに変化していく時期にあって、附属天王寺の教育をNew Normalにしていけるような発信をしていきたいという願いである。

1.今年度の研究テーマ（案）

令和6年度	第71回	コンピテンシーを軸にした 附属天王寺型STEAM教育開発 ～New Normalに向けて～
-------	------	---

New Normal「新しい常態」。
これまでの実践を整理、評価すること、またそれを洗練して発信し、イベントとしての教科横断でなく、常態化させ、持続可能な教育モデルとして、発信することに注力したい。

1.今年度の研究テーマ（案）

令和元年度	第66回	学びの自立を目指す評価の工夫と改善 ～深い学びの実現とその評価～
令和2年度	第67回	附属天王寺型一貫教育のためのICT機器を活用した学校運営・教育活動の提案
令和3年度	第68回	附属天王寺型一貫教育 ～何から始める？連携の視点を探る～
令和4年度	第69回	コンピテンシーを軸にした中高一貫カリキュラム
令和5年度	第70回	コンピテンシーを軸にした 附属天王寺型STEAM教育開発
令和6年度	第71回	コンピテンシーを軸にした 附属天王寺型STEAM教育開発 その2（仮）

1.今年度の研究テーマ（案）

- 実践の収集 令和4年度 STEAMの日
令和5年度 教育研究会・・・
- 実践の整理 附属天王寺型STEAMとは・・・
「教科の枠をこえる／教科の学びがある」
「共通のビジョン」
「生徒の生活、興味関心との結びつき」・・・
- 他校への発信 教育研究会での授業公開
公立学校との研究協力

1.今年度の研究テーマ（案）

令和6年度 第71回 コンピテンシーを軸にした 附属天王寺型STEAM教育開発 その2（仮）

2. 推進日の計画の周知

3. 中高教員交流

[形式]

4, 5人組 1人の持ち時間 6分

この時間で区切って次の人へ（4人班の最後のターンは総括的・補足的に）

[内容]

自己紹介（次のトピックを含んで）

- ・昨年度の個人研究テーマに関わる実践の紹介
- ・今年度の個人研究テーマのアイデア
- ・得意不得意、成功失敗などの情報共有

3.中高教員交流

4, 5人組 1人の持ち時間 5分
この時間で区切って次の人へ

自己紹介（次のトピックを含んで）

- ・昨年度の個人研究テーマに関わる実践の紹介
- ・今年度の個人研究テーマのアイデア
- ・得意不得意、成功失敗などの情報共有

研究集録の個人研究テーマ
今年度の締め切り 5月31日（金）
後日teams掲載

推進日②

実施日：6月19日（水）

場 所：各教科部会別

内 容：小中高について

目 的：天王寺地区の生徒・児童の特徴を探り、特

徴的であるのか、どのような学びが効果的であるか、を生徒の発達段階を考慮に入れ、小中高の教員の交流の場とする。

推進日③

実施日：7月19日（金） 場所：特別室

1. 授業記録の共有

エクセルを用いて中1～高3まで、各教科で1つのファイルを作成し、「担当者」「実施期間」「単元・教材」「概要」「備考」の枠で記録を作成した。

それをMicrosoft teamsを用いて教科・校種を超えて閲覧できるようにし、対面にて情報共有を行った。

担当者	実施期間	4月16日	～	5月1日	全	6	時間
単元・教材	1章 1節…数の見方、2節…正の数、負の数						
概要							
「数」について 数のしくみについて 素因数分解 素数 累乗と指数 正の数、負の数 正の数、負の数の大小関係の表し方 絶対値							
備考							
「数」について 素数の意味を知り、指数を用いて累乗の形を使って素因数分解に取り組む。 素因数分解を利用して、平方や立方、倍数や約数について考える。 符号、絶対値について考えることで数のしくみや数直線について考える。 正の数、負の数について考え、不等号を使って大小関係を表現する。							

担当者	実施期間	5月2日	～	5月16日	全	3	時間
単元・教材	立憲主義と法の支配						
概要							
・ロックの社会契約説に基づき、議会制民主主義の意義について考えさせる。 ・憲法は誰が誰に守らせるものなのかを考察し、立憲主義の意義について理解させる。							
備考							

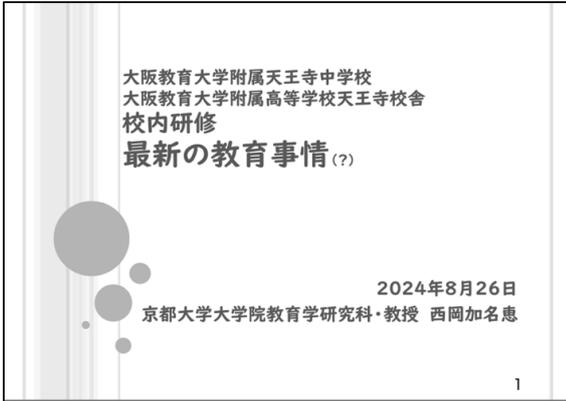
担当者	実施期間	～	全	5	時間
単元・教材	梶井基次郎「檸檬」				
概要					
・梶井基次郎作「檸檬」の精読 ・梶井基次郎「ひそやかな楽しみ」の読解と共通点、相違点の分析 ・梶井基次郎「桜の樹の下には」の読解と共通点、相違点の分析					
備考					
・作品の特性、ジャンルによる表現方法の違い ・梶井基次郎の生き方、死生観、世界観、芸術に関する主張					

2. 教育研究会発表者打ち合わせ

当日のプログラムや指導助言者、司会者等の現状確認を行った。また、次回の推進日④で指導講師である西岡加名恵先生に授業プランの指導をいただく機会がある旨を伝達し、希望を募った。

推進日④

実施日：8/27（火）13:30-15:00 場所：小講堂
講師：西岡加名恵
演題：最新の教育事情



0. はじめに
(1) カリキュラムの定義の変遷

①「教科課程」(「教への計画」:program)
②「教育課程」←curriculumの訳語として成立
⇓「隠れたカリキュラム」への注目
⇓「総合的な学習の時間」の創設

③カリキュラム:「学びの履歴」
子どもたちが学校で学ぶ「学習経験の総体」(佐藤学『教育方法学』岩波書店、1996年)

④カリキュラム(教育課程):「学びの計画と実践」
「[学校の]教師たちが、子どもたちや青年たちの成長と発達に必要な文化を選択して組織した全体的な学習経験の計画と実践」(西岡加名恵「教育課程(カリキュラム)とは何か」西岡加名恵編著『教育課程』協同出版、2017年、p.8)

※カリキュラムは、教育課程時程表ではない。

(5) 総合科学技術・イノベーション会議(2022年6月)

【経典】 Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ

社会構造の変化
少子高齢化、人口減少、労働力不足、デジタル化の進展

教育の中核となる多様性
個性・能力・価値観の多様性を尊重し、一人ひとりの可能性を最大限に引き出す

バイパスのなかでも関係の連続性
大学・大学院、職業教育、生涯学習の連携

政策1 子どもの特性を重視し、心身の発達に合わせた多様な学びの機会を提供する
政策2 探究・STEAM教育を社会全体で推進し、イノベーションの創出を促す
政策3 生涯学習の機会を拡大し、社会人に対する学びの機会を提供する

実現に向けた3本の政策、46の施策

8. 次の改訂に向けて
◎文部科学省「今後の教育課程、学習指導及び学習評価の在り方に関する有識者検討会」

文部科学省
有識者検討会
今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会

開催状況
第1回開催(2024年7月10日) | 第2回開催(2024年7月24日) | 第3回開催(2024年8月7日)

2024年8月26日
大阪大学 附属天王寺校舎

推進日⑤ 教育研究会中間発表

実施日：9/18（木）16:00-17:00
場所：小講堂
*発表10分(質疑応答含む)

- 発表順：1 国語
2 数学
3 理科
4 音楽
5 英語
6 中横断
7 高横断①
8 高横断②
9 自由研究

『平家物語』の
教材としての価値

- 長い年月をかけて琵琶法師によって伝えられてきた語り言葉の深さと魅力を体感することができる。
- 源平合戦の実体や物語の登場人物の心情を理解し共感することで、当時の文化や生き方などを学び、現代との違いを体感することで、そこから未来をどう切り開くかを考えられる。
- 語りの文化を知ること、古人から現代までの読み手がどのような物語を好み、いかに生きたか想像し、それを自分の知恵として身につけられる。

現実事象を題材にした幾何学の探究活動

本校の生徒に対しての課題

- 問題集の問題を解く力が高い
- 自分が何故そう考えたのかを説明する力は低い
- 問い方を変わると途端に解けなくなる
- 現実事象を数学的に解決する力が低い

問題を問いにする力が不足している

毎年4月、大阪教育大学教育協働学科音楽表現コース
4回生教育免許取得希望者全員を対象とした教育実習
オリエンテーションを実施する中で

《学生への問い》

- あなたにとって、よりよい音楽科教育とは？
- 中等音楽科教育法の講義で印象に残っていることは？
- 実習現場で音楽の授業をする上で不安なことは？

どの問いに対しても、「知覚・感受」とまるで呪文のように答える学生たち

CLIL=Content and Language Integrated Learning(内容言語統合型学習)

【意義】

【授業に入れるべき4つのC】

Content (内容)
Communication (言語: 英語の知識や技能)
Cognition (思考: 考えさせること)
Culture/Community (異文化意識/国際意識)

Theme: 「心が動くこと」と「その先(研究)に行くこと」の間に何がある?

Point:

▶ 「チンダル像」の観察
水の中に現れる雪の結晶のような模様(チンダル像)を観察し、それぞれが感じたこと、考えたことを共有する。

▶ 「研究」しようと思うには?
研究者が様々な現象と出会い、研究するケースがあるが、心が動くだけでなく、その先(研究)へ向かうにはどのような要素があるのかを多様な観点から考える。

SCIENCE
(chemistry) 担当者: 南 勝仁

本研究のねらい・つきたい力

ねらい
事前学習を通して研修旅行への興味・関心を深め、目標や目的を明確化させる。また、現地での体験を通して物理的視野の広がり(風景)と、内面的な視座の高まりと視野の広がり(知識など)を体験させる。

つきたい力
・興味を広げたり、掘り下げる知的好奇心
・実物に触れそれに即して考える力

研修旅行の事前学習から文集作成までの取り組みを通して、生徒達に視野の広がりを実感させる。

1. ポスター発表の必要性について

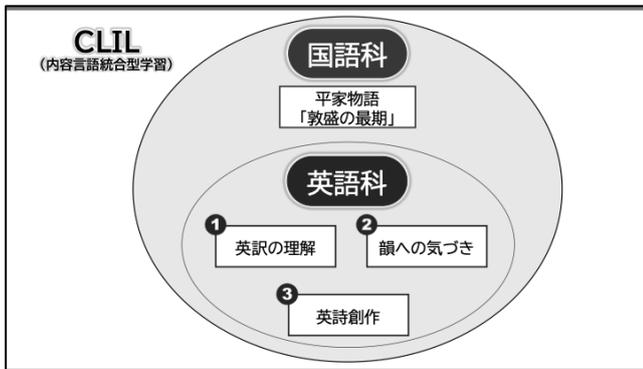
総合的な **学習** の時間の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す。

探究的な学習における生徒の学習の姿

中学校学習指導要領(平成29年告示)解説
総合的な学習の時間編 より引用

以上のスライドのように、各教科・グループより、発表がなされ、全教員間での検討が行われた。この議論を踏まえて、教育研究会当日に向けて各教科・グループで再度ブラッシュアップを行なった。



論理表現 I Which kind of research did Dr. Nakaya conduct?

中谷宇吉郎
How do clouds form?
Snow Crystals論文ハーバード大学出版

寺田寅彦
There are surprisingly many instances where events that seem to happen by chance are actually correlated, leading to successive occurrences. This is referred to as **intermittency of events**.

線香花火 Sparklers
金平糖 Rock candy
雷 Thunder
リヒテンベルク図形 Lichtenberg figure

推進日⑥ 小中高研究部会（中学校主催）

（大阪大谷大学 准教授）

実施日：10月22日（火） 16:30-17:30

内 容：小中高連携について

目 的：天王寺地区の生徒・児童の特徴を探り、特徴的であるのか、どのような学びが効果的であるか、を生徒の発達段階を考慮に入れ、小中高の教員の交流の場とする。

実施例：国語科においては、教育研究会の指導助言である小路口真理美先生をお招きし、小中高の国語科グループで、教育研究会の発表に向けた検討会を行なった。

理科 主題：資質・能力の育成支援における手法の
深化と評価の検討

指導講師：大貫 守 先生

（愛知県立大学 准教授）

英語 主題：主人公になりきって、世界の紛争問題
について考える

指導講師：竹内 理 先生（関西大学 教授）

音楽 主題：知覚・感受って何だろう？

指導講師：長谷川 諒 先生

（神戸大学 非常勤講師）

附属天王寺型STEAM教育（高①）

主題：雪の結晶を題材とした教科横断的な学
び

指導講師：小西 啓之 先生（大阪教育大学 教授）

附属天王寺型STEAM教育（高②）

主題：広がる視野を実感する研修旅行づくり
～自治と学習を通して見えるものは？～

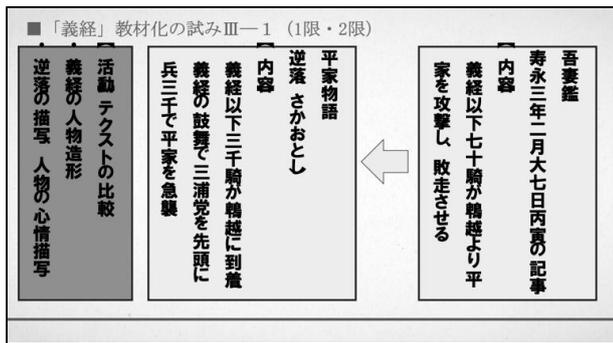
指導講師：小西 啓之 先生（大阪教育大学 教授）

附属天王寺型STEAM教育（中学）

主題：古典文学を通じて感じる英語の面白さ

自由研究（探究活動）ポスター発表（中学）

*令和7年度教育研究会は令和7年11月8日（土）
を予定している



推進日⑦ 教育研究会

実施日：11月9日（土）

研究主題：コンピテンシーを軸にした天王寺型
STEAM教育開発 New Normal

内容	時間	場所
受付	9:00～9:30（30分）	校門前吹き抜け
全体会	9:30～9:50（校舎主任挨拶・ 本日の案内）	小講堂
移動	授業Ⅰの教室まで移動（10分）	
授業Ⅰ	10:00～10:50（50分）	各教科指定場所
休憩	（20分）	
授業Ⅱ	11:10～12:00（50分）	各教科指定場所
昼食	12:00～13:00（60分）	各教科控室使用可
発表 協議	13:00～14:30（90分）	
全体 講演	14:50～16:20（90分）	小講堂

国語 主題：古典に遊び、古典に学ぶ

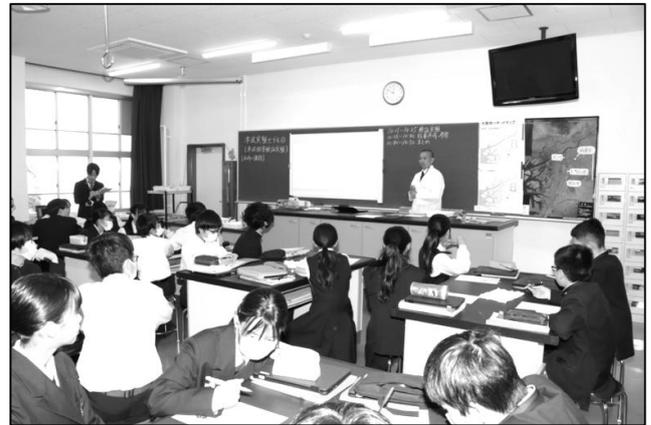
指導講師：小路口真理美 先生

（大阪教育大学 教授）

数学 主題：見える世界を数学的に解決する資質・
能力の育成

指導講師：竹歳 賢一 先生





推進日⑧（予定）

実施日：2月6日（木）

小中高研究部会（小学校主催）

場 所：大阪教育大学附属天王寺小学校

内 容：各教科の授業公開および協議会

推進日⑨（予定）

実施日：3月21日（金）

場 所：特別室

内 容：年度総括

教育研究会当日講演要旨

石井英真先生（京都大学大学院教育学研究科 准教授）「授業づくりの不易と革新」の講演要約

良い学校をつくるためには、学力を高めること…面の授業改善が大切です。点の信頼とは、教師によって生徒の態度が異なっている状態です。一方、この学校の先生は信頼できるというのが面の信頼。面の授業改善（学校ぐるみの授業改善）ができて、初めて良い学校づくりが可能となります。

教壇に立って生徒に数分話をすれば、その教師の力量はわかります。若い先生は沈黙が怖くて喋りまくりませんが、ベテランは間をうまく利用して言葉を届けます（ICT教育になると、板書とノートは不要という意見がありますが、逆です。教師の板書技術や生徒へのノート作りの指導がより重要になっています）。

学校に集まって学ぶ意味は？ これは子供からの問いかけであり、学校の生きづらさ問題とも関わっています。授業形態に関しては、図工・部活動などの寺子屋の学習が有効です。たとえば一斉講義では立ち歩きは逸脱行為ですが、調理実習は違います。そう考えると個別最適な学びの学習形態の意味が見えてきます。

生きづらさに関しては、近年の自己確認の手段が周囲からのキャラ認定となっていることが重要です。いったんキャラ認定された後に、本音の言動をすると「キャラが違う」と言われてしまう。絶えず同じキャラを演じ続ける関係は疲れます。これが友達地獄です。本音に対して「面白いね」と言ってもらえる、異質なものを面白がる場が共生の場です。教師も同じです。「このような授業をしたい」と互いに言える場が必要です。学校を変えるなら、子供の学びと教師の学びをセットで変えましょう。個別最適な学びの問題は、授業よりも学級づくりがポイントかもしれません。個別最適な学びに優れた教師は学級づくりもすごいですよ。「この子は他のクラスだとしんどいけど、うちのクラスなら輝く」というのは素晴らしい実践です。

日々の授業での子供の振る舞いを観察し、学んでいる教師は成長していきます。子供の活動を、どのような動詞で示すかも大切です。検索してコピーというのは、集め学習。入手した情報がある観点から整理して、はじめて調べ学習となります。では調べ学習の先は？ 生徒に「それで？」と尋ねてみます。探究教育には、生徒本人がその研究をする理由（掘り下げ）が必要であり、そういう意味ではキャリア教育なのです。自分事である探究活動ならば迫力のある研究になっています。また国語でテキストを読み深めるという作業…国語科のメインの動詞「読み深める」が抜けていたら、教科教育としては失敗です。各教科で、本質となる動詞が抜けていないか確認が重要です。先生方自身が子供目線で、子供がどのような動詞を経験しているかを確かめて下さい。化学の授業で「実験する」が、たんなる「作業をする」になっていませんか？ 「はてな」が大切です。教師が「はてな」を生徒たちに作らせることであれば授業は自然と流れていきます。

授業後に「何の授業だった？」と聞いたときに、生徒がどう答えるか、想定しておくことも重要です。最近では、教師側の狙い（掴ませたいもの）がない授業が多いです。出口にいる子供の姿をイメージし、教師の予想と子供の実態が異なるとき、教師はそこで学ぶことができるのに。仮説のない授業をするのはダメです。

授業とは「教師－子供・子供－子供」という枠組ではなく、必ず教材を介してのコミュニケーションです。二項ではなく、三項で考えることです。授業づくりとは、いかに子供たちと教材を出会わせて、いかにその教材に没入させるかです。それが楽しかったら、生徒はもっとやりたいと思うでしょう。子供は教材に向き合っていますか？ 三角形の関係性でみると、共同注視の関係が大切です。対面ではなく、共に同じものを見るという関係です。授業づくりと保護者対応は同じです。保護者と向き合うから喧嘩になる。子供と一緒に見る関係にすれば変わります。学校とは、子供を教師集団・保護者・地域で見えていく共同注視の場です。

学びの原点の一つは読み聞かせです。読み聞かせが効果的なのは、きれいな共同注視の関係になっているからです。日常生活で親子が取り組み、親が忙しいときは子供が一人でも本を読むようになり、さらにほかの本にも手を伸ばすようになる。教科の授業も同じです。算数の世界を生徒と教師と一緒に味わっている。最初は〇〇先生との授業が楽しかったが、やがて算数の授業自体が楽しくなる。そして算数が好きになる。教師という伴走者は子供を見ている人ではありません。子供と一緒に同じものを見ている人なのです。

主体的で対話的で深い学びのイメージとはどのようなものでしょうか？ 具体的な授業風景で考えましょう。国語の「ごんぎつね」の授業で、ごんの最期の気持ちについてグループ学習をするとき、子供たちは頭を突き合わせて、腰を浮かせて話し合おうでしょう。内的集中をしているとき、身体は無防備となります。さらに対話も。深い学びのとき「あー」というため息をつき、眉間にしわを寄せて考えている。そのときの子供たちの視線は、教材に向いている。教材を介して子供たちが眼差しを共有しあっている姿です。

学習形態がどのように変わっても、教師の仕事というのは、生の教材研究・教材と生徒との良い出会いを組織する（導入）・その教材といっしょに対話する・さらに「まだ甘いよ」と指摘をすることです。そしてチャイムが鳴っても「えっ、もう授業終わったの？」という状況で、生徒が学習をやめようとしめない。このような授業の場が学びの場です。つまるところ授業や学びの支援では、いかに教材と出会わせて、没入させるかが大切なのです。（質疑応答は省略）。



2024/11/9
大阪教育大学附属天王寺中学校
高等学校天王寺校舎

第 71 回 教育研究会

「コンピテンシーを軸にした附属天王寺型 STEAM 教育開発～New Normal～」

1.本日のプログラム（青字は会場）

全体会	1限目 (授業 I)	休憩	2限目 (授業 II)	昼休み	協議	休憩	講演会
9:30～9:50	10:00～10:50	10:50～ 11:10	11:10～12:00	12:00～ 13:00	13:00～ 14:30	14:30～ 14:50	14:50～ 16:20
小講堂	中 2 国語 特別室	20分	高 II 国語 特別室	60分	国語 STEAM 中 2 英 特別室	20分	小講堂
	中 I 数学 中 2 A		高 I 数学 小講堂		数学 中 2 A		
	中 I 理科 物理実験室		高 II 理科 化学実験室		理科 物理講義室		
	高 II 英語 中 3 D		英語協議 中 3 D		—		
	中 I 音楽 音楽室		高 II 音楽 音楽室		音楽 音楽室		
	STEAM 高① 高 I 国語 中 2 D		STEAM 高① 高 I 物理 中 2 D		STEAM 高①② 中 2 D		
	STEAM 高② 研修旅行 中 3 B		—		—		
	自由研究 生物実験室 生物講義室		自由研究協議 生物講義室		—		

*昼食は控え室でおとりいただけます。一旦、外出していただいても差し支えございません。食堂も利用することができます。

*アンケートはお帰りの際に、校門前でご提出ください。

*STEAM 高①において授業者と時間割の変更がございます。ご注意ください。

2.見学に際しての注意事項

- 授業風景の撮影は、個人の記録や勤務校での報告用とし、生徒個人が特定されることのないようにしてください。また、SNS 等へのアップロードはご遠慮ください。
- 荷物は控え室に置いて、見学していただいかまいませんが、貴重品の管理やお忘れ物、荷物の取り違えにはお気をつけください。
- 講演会の録音・録画等はご遠慮ください

3.資料



①事前資料
事前に配信している資料・映像等です。
パスは futen2024 です。



②当日資料
データ配布の当日資料は、こちらより、ダウンロードしてください。必要なものは本日中午にダウンロードしてください。

